

第2回審議会でのご意見を集約

資料 1

第2回審議会 事務局が提示した 基本理念案

生まれ育った環境に左右されことなく、
子ども・若者が未来へつながる道を選べるアダチをつくっていく

各委員からのご意見

1 基本理念の考え方

- ① 一つの理念に、足立の「子ども・若者の将来像」と、それに向けての「区の基本的な方針」の二つを盛り込むと難しくなる
- ② 基本理念には到達点として、「目指すべき高いゴール」を掲げているのか。すぐに到達できるかわからないが「努力し続けるための方向性」としているのか
- ③ 理念をどういう風につくるか。「この理念を実現します」か、「常に子どもや若者や家族、子育て当事者と一緒につくっていきますよ」のいずれか
- ④ 他の自治体では行政計画に「子ども観」は示さないところが多い。今までの足立の子どもの貧困対策のレガシーを踏まえて、三つくらいでどうか

2 子ども・若者の参画の視点

- ① 「一緒につくっていく」という文言・ニュアンスは必要
- ② 子ども・若者、保護者が「足立区は意見を聴いてくれそうだな」と感じるのが重要。当事者と一緒に頑張っていきます、という視点
- ③ 「アダチをともにつくっていく」であれば、子ども・若者も、親・子育て世帯も、地域の方々・教員・パークリーダーなども含まれる。重要なステークホルダー。こういった人たちもこの理念を見て、自身も「こういう足立をつくっていくことに貢献しているんだ」となるとよい
- ④ 区が「歩み寄ってくれている」というニュアンスにすれば、自分で声を上げられない方たちも自分たちの心の支えが区なのだ、心を開ける場所が区だと思えば、より相談しやすくなるし、声を上げやすくなる。「ともに」という言葉はよい
- ⑤ 子育て当事者として、保護者の意見をきちんとくみ上げて、寄り添っていくべき

3 未来の幸せのためには「今」が幸せであることが重要

- ① 子どもたちが今も幸せに生きていって、それが未来を選べることに繋がっていく(類似意見多数)
- ② 足立区基本計画でも「自己肯定感をもち、笑顔で健やかな子どもを育てる」とある。笑顔というのは「今」が幸せでないと実現できない
- ③ 「今」も「未来」も子どもたちが幸せであるために、これを保障するために選べるようにサポート(支援)していく形であればよい
- ④ その道に進んでも未来でちゃんと幸せに生きられる。今も未来も幸せになることが選べるよりも大事
- ⑤ 理念案は“ワクワク感”がない。楽しめる足立をつくる、という視点も必要

4 選べる／選択肢を提供

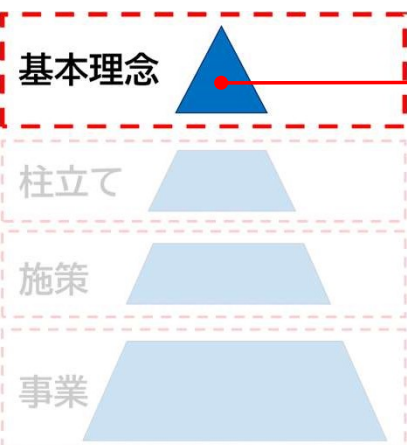
- ① 子どもが選べるというのは、子どもに責任を帰す考え方であると懸念する。大人側の責任も明記すべき。区の責任が重くなるのではないか
- ② 「選べる」ことを重要視するのであれば、選べることを保障する、選べる環境をつくる、豊かな選択肢を保障することも重要
- ③ 本来の希望とは異なるような働く道しなくてもその道で幸せになれることが重要。選べなくても幸せになれるよう足立区がサポートできるとよい
- ④ 「選べる」のかわりに「進める」はどうか。選ぶことには強制力がある。背中を押してあげる政策。その道しるべをつくる、選べるという要素も入っている前向きな言葉は「前に進む」ではないか
- ⑤ 多様な選択肢があるという足立。そこには行間として「選ばない」という選択肢も含まれる

5 足立区らしさ

- ① 「生まれ育った環境に左右されことなく」は足立区らしい

基本理念案を再検討

第3回審議会で提示する基本理念案



足立区基本計画の基本理念

- ✓ 個人・社会のウェルビーイングの双方を向上
- ✓ 子ども・若者も一人ひとりが権利の主体であり、地域社会の一員であることを再認識し、共にまちを創っていく【子ども等の参画の視点】

再検討にあたってのポイント

- ① 基本理念は区の基本的な方針として1本にまとめる
- ② 「今」と「未来」の幸せを包含した「ウェルビーイング」に換言する
- ③ 子ども・若者の「参画」という視点を盛り込む
- ④ 子ども・若者に選択肢を提供することで本人に責任が伴うため、「選択」の文言を用いないこととする

区の基本的な方針

**子ども・若者のウェルビーイング※をともに考え、
生まれ育った環境に左右されない未来に向かって、
ともに進むアダチをつくっていく**

※ ウェルビーイング
身体的・精神的・社会的な面で
幸せな状態

■ 「子ども・若者のウェルビーイングをともに考え、」

- 「今」が幸せな子ども・若者や、そうでない子ども・若者のこれからを一緒に考える姿勢
- すべての子ども・若者が幸せで居続けられるよう、保護者や地域・団体などと一緒に選択肢を考える

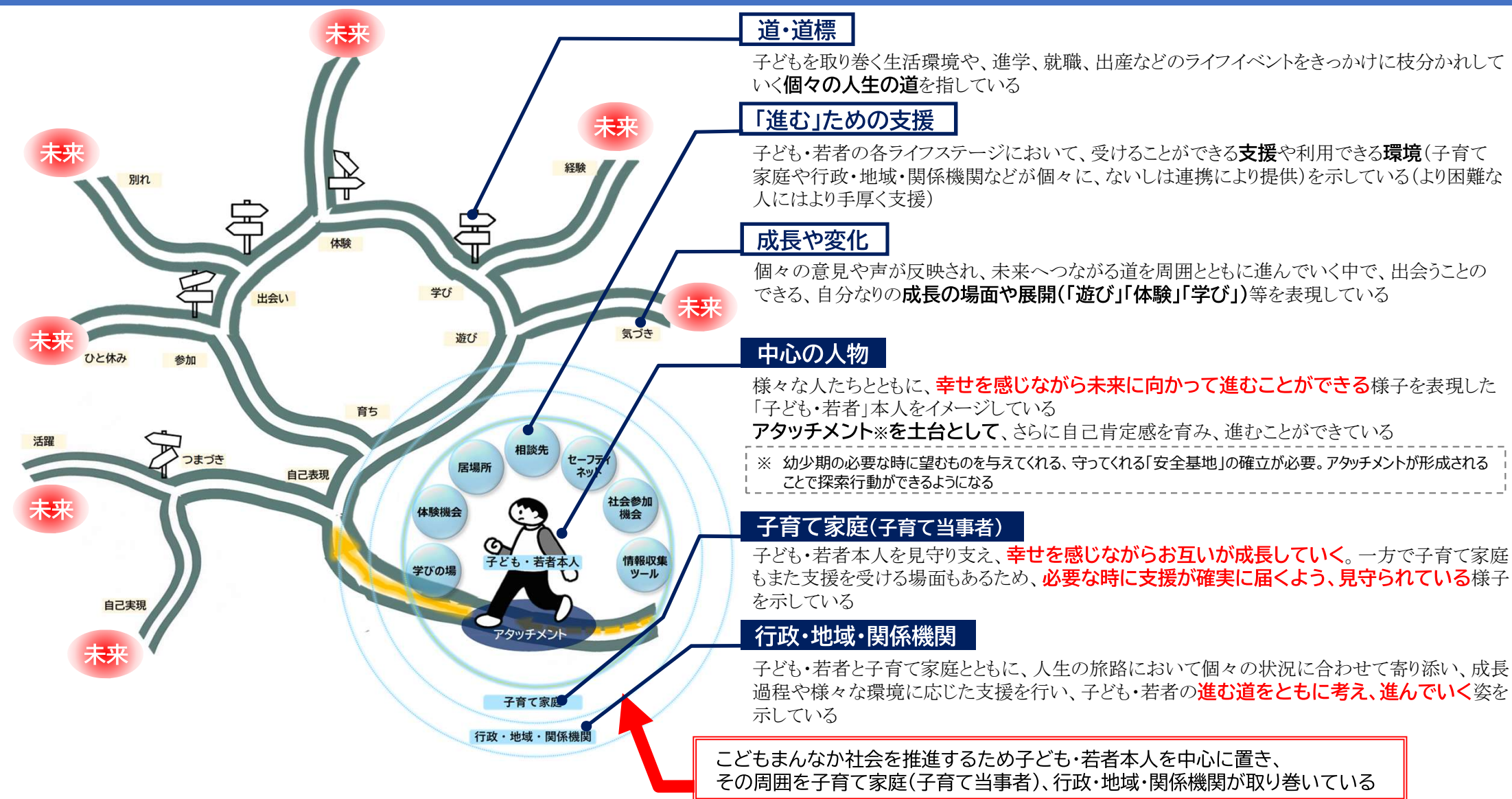
■ 「生まれ育った環境に左右されない未来に向かって、」

- 困難な状況下で生まれ育ったとしても、少し先の未来から幸せを感じ、その先の未来に希望がもてる
- 子どもの貧困対策に重きを置いた計画を示している

■ 「ともに進むアダチをつくっていく」

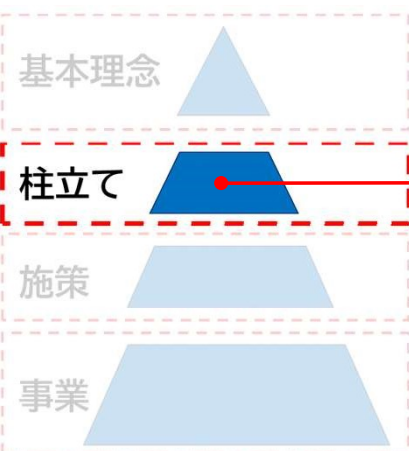
- ともに考えるだけでなく、未来への一歩も保護者や地域・団体などとともに歩む姿勢
- 支援の仕組み作りや一緒に未来を創造するなど様々な意味が包含されているので「つくっていく」と表示
- 区が保護者や地域・団体との協働協創で支える仕組みをつくっていくという区の方針

基本理念(案)のイメージ



基本理念案をもとにした計画の「柱」(案)

資料 2



基本理念を実現するためには、

- 子ども・若者へ直接働きかけることはもとより、一番身近にいる保護者に対しても安心して子育てできる支援策を示すことが必要
- 地域等も子ども・若者の身近なロールモデルとして、子ども・若者、子育て当事者を支援する側としての協力が必要

基本理念を実現するために必要な要素として**3本の柱**(第1回審議会の意見をもとに、3つの重要な視点)に整理

柱1 すべての子ども・若者の
生き抜く力を育む

子ども・若者に関する取組

子どもが自由に意見を伝え、参画できる環境のもとで、生き抜く力を育むとともに、夢や希望をもてるような支援(体験・遊び、学び・達成感を得る機会等)を切れ目なく行い、それぞれの進む道や「やりたい」「なりたい」を実現していく

柱2 安心して子育てできる
環境を提供する

子育て家庭(当事者)への支援

家庭の生活基盤が安定し、自立した生活を送るための確実に届く支援を行うとともに、安心して子育てができるために取り組む

柱3 区が地域・団体等とともに
支える仕組みを整える

地域における協働や体制整備

子ども・若者、子育て家庭を地域や社会全体とともに支えていく

3本の柱のもとで

- 現実的な支援
- 夢を後押しする支援

子どもの
貧困対策

子ども・若者
育成支援

少子化
社会対策

これらに関する施策をしっかりと取り組むことで、子育ての不安を少しでも取り除くことが

にもつながっていく

▼基本理念(案)のイメージ

